

情報化施工の意義について

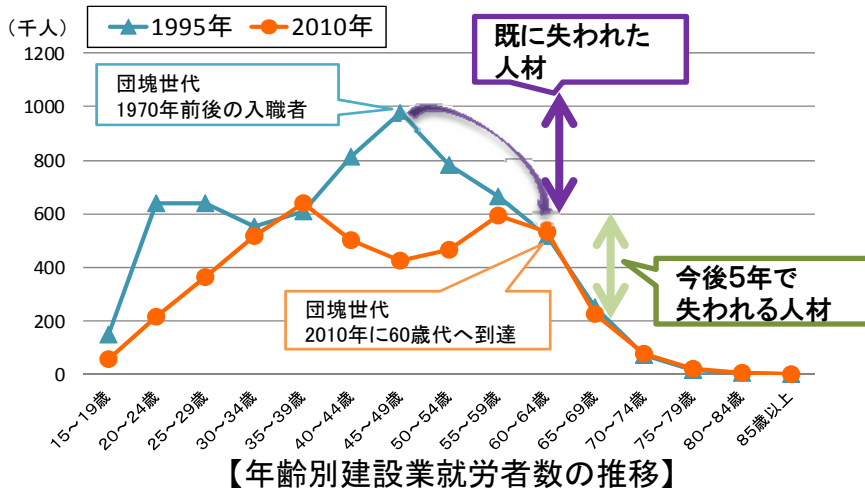
1. 我が国が今直面する社会課題と情報化施工

【社会課題：少子高齢化や人口減少を背景とした人材不足】

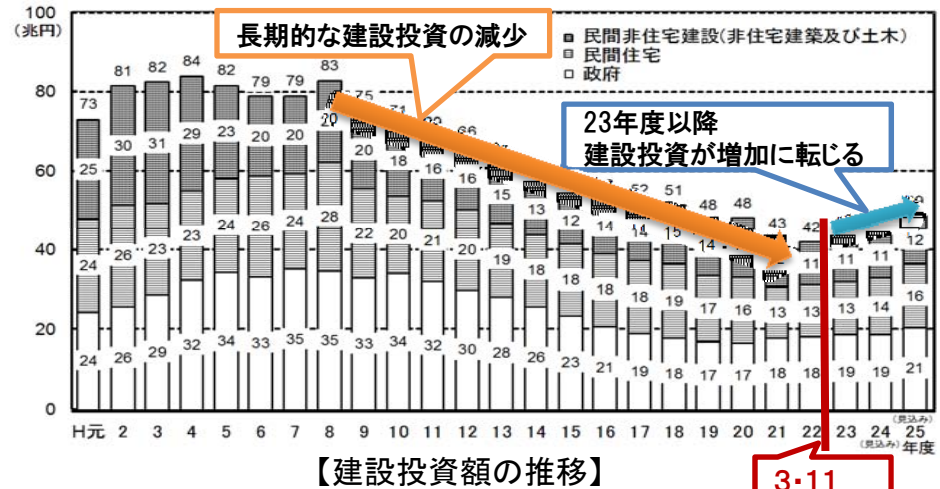
- 建設業では、就業者の高齢化と若年入職者の減少により将来的な人材不足が課題とされる。

【対応策：生産性の向上と新規入職者の増加】

- 人材不足への対応として労働生産性向上が課題であり、情報化施工の浸透が期待される。
- 新規入職者の増加(特に若年層、女性)が必要であり、情報化施工による支援が期待される。



出典：「国勢調査(職業等基本集計)」より独自に作成



出典：「平成26年度 建設投資見通し」国土交通省平成26年6月

- ・少ない人手で現場を回すことが必要
 - ・入職者数を増やすための環境整備が必要
 - ・新規入職者でも現場が回る支援が必要
- 情報化施工が処方箋となる可能性

2. 情報化施工による社会課題解決の可能性

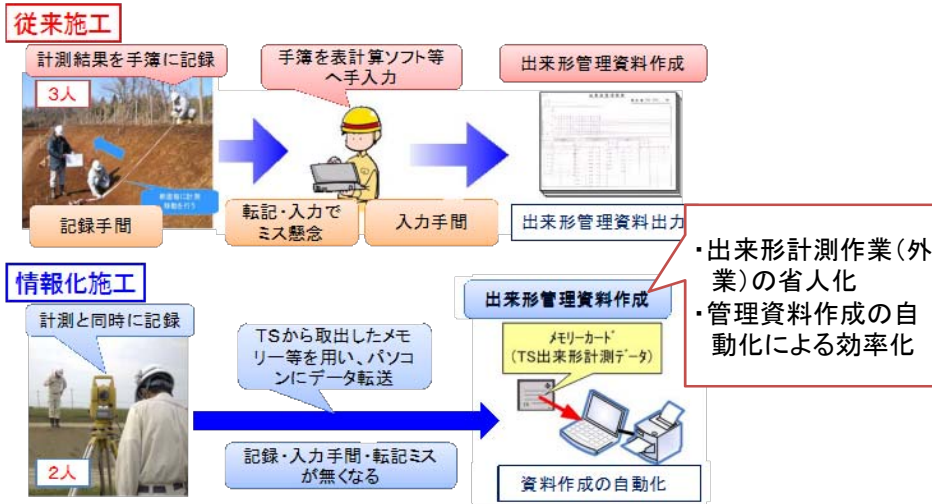
【生産性向上(省力化・効率化)に資する情報化施工】

- 例えばTSによる出来形管理の普及により、**現地作業の省人化や内業の効率化**が図られる。
- MC/MG技術の活用によりバラツキのない施工を実現し、**手戻り等による無駄削減**が図られる。

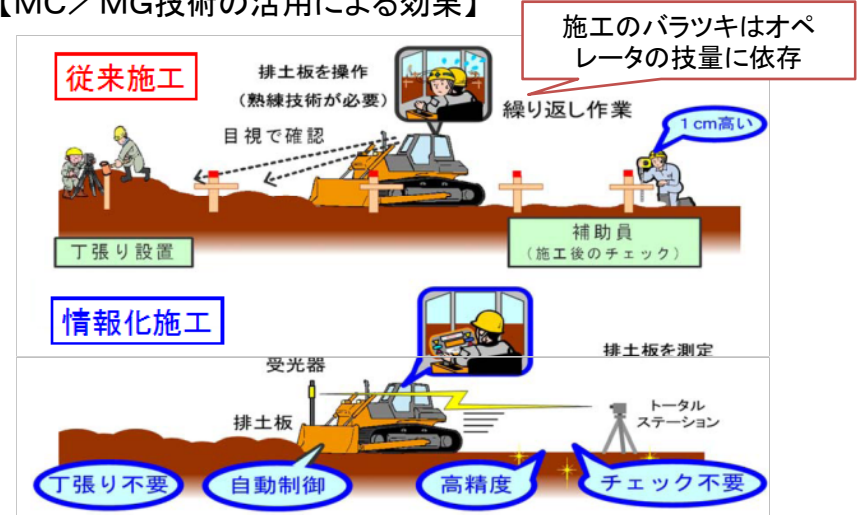
【新規入職者を支援する情報化施工】

- 建設現場で比較的頻繁に行われる作業でも、熟練した技術(経歴15年程度)が必要とされるが、MC技術の活用により、**未熟な作業員の機械操作能力の補助・向上**が図られる。
- MC/MG技術の活用により、**幅広い人材の活用が可能**となり、人材の確保が容易になる。

【TSによる出来形管理の普及による効果】



【MC/MG技術の活用による効果】



【外業から内業への転換による幅広い人材の活用】



【MC/MG技術を活用した入職者教育支援】

